

# SEED (シード)

Vol.034  
2026年3月

ついに今年度の活動期間が終了しました。全9プロジェクトの最後の活動報告とともに、3月14日（土）に開催した「活動報告会」の様子をお届けします。

**【まちづくり・地域づくり部門】GMS学部 柴田 邦臣先生プロジェクト**  
門前町でのフィールドワークを通じて被災地域の復興・活性化を目指しました！

## 活動テーマ 門前町の祭祀再開支援から学ぶ地域復興のフィールドワーク

1月30日から、能登地域で「ごうらい祭り」の写真展示やデジタル相談会などの活動を行いました。

写真展示では、ごうらい祭りの様子を伝える写真を通して、地域の方々が当時の思い出を語り合う場が生まれていました。話すことで記憶が蘇り、それを共有し、記録し、次へと伝えていく過程に私たちも関わることで新しい「伝承」の形に参加していることを実感し、とても印象に残った活動でした。また、現地では、除雪されていない場所や閑散としている仮設住宅も見られ、復興に時間がかかっている現実を再確認しました。





一方、デジタル相談会では積雪の影響により1人ほどしか来ないと思っていましたが複数人に来場していただき、その中で「誰かに聞けるという環境がないから助かる」という言葉を耳にしました。



私達のこうした活動を通して、記憶を伝承したり日常の会話が生まれる場をつくることも地域復興の大切な1歩であると感じました。

## 【まちづくり・地域づくり部門】文学部 川上 富雄 先生プロジェクト 横浜市の寿町を訪れ、地域が抱える課題や現状を認識しました！

### 活動テーマ 玉川地域を中心とした住民福祉活動への学生参加事業

寿町へ研修を受けに行きました。横浜市中区に位置する寿町は、東京の山谷、大阪の釜ヶ崎と並ぶ「日本三大寄せ場」の一つです。戦後の米軍接收解除後、職安の移転や簡易宿泊所（ドヤ）の建設が進み、港湾労働を支える日雇労働者の街として発展しました。「門限なし」「廊下まで外履き」といった独自の文化を持つドヤが100軒以上立ち並ぶ、歴史ある地区です。

町回りで見学した、介護ニーズに応える「福祉ドヤ」の広まりが強く印象に残りました。横浜市のデータでは、高齢化率が53.4%に達しており、街全体が福祉の場へと変容しています。

しかし、手厚い介護付きの宿泊所は費用が高く、宿泊者の約9割が生活保護受給者である現状では、誰もが利用できるわけではありません。さらに、需要に対して供給が追いつかず常に満室という実態もあり、高齢化の進むドヤ街が抱える深刻なジレンマを痛感しました。

さらに、近年の寿町では高齢者支援だけでなく、外国人留学生や女性といった新たな層への対応も進んでいます。近隣に日本語学校がある背景から、低価格で交流を重視するホステルや留学生向けの寮、女性専用の宿泊施設などが増加していました。外国人人口が増加し続ける横浜市中区において、寿地区はかつての「日雇労働者の街」という枠を超え、多様な背景を持つ人々を受け入れる新たな地域福祉のモデルを展開していると感じました。



## 【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト

今年も多くの人々に放射線教育を届け、複数の学会において賞を受賞しました！

### 活動テーマ RED-RINGプロジェクト ：持続可能な放射線教育の深化と波及

活動の認知拡大を目的に、1月20日に駒沢大学駅構内のOpenMartにてポスター掲示を行いました。あわせて、関心をお寄せくださった方へリーフレットを配布し、本プロジェクトの取り組みへの理解促進を図りました。



こうした学内外での発信も含め、2025年度RED-RINGプロジェクトでは年間を通じて中高等教育機関、環境省、世田谷区など計12機関と連携し、幅広い世代を対象とした放射線リテラシー教育を展開しました。オープンキャンパス、学部生向け講義、学会発表など多様な場で自作教材を活用し、正しい知識をわかりやすく伝える機会を創出しました。その結果、年間19企画を通じて600名以上、昨年度までの活動と合わせて延べ1,750名以上の方々に放射線教育を届けることができました。

また、学会では5つの賞を受賞し、本教育活動が一定の社会的評価を得たことも成果の一つです。自作教材を用いた講義では、受講者の放射線に関する設問の正答率向上が認められ、放射線に対するイメージの変化も確認されました。さらに、プロジェクトに協力した大学生にとっても、放射線知識の深化に加え、コミュニケーション能力や指導力といったソーシャルスキルの向上につながりました。

これまで中高生向け講義が中心でしたが、活動の広がりにより、今年度は教育機関の教員にも教材を体験していただく機会を得ました。私たちが教員に講義・教材体験の機会を提供し、各教育現場での実践へとつなげていただくことで、放射線教育が自走的かつ加速的に普及していくための基盤を構築できたと考えています。

【まちづくり・地域づくり部門】文学部 李 妍焱 先生プロジェクト  
プロジェクト完遂！ゼミ論集として活動の成果をまとめ上げました！

活動テーマ 駒大生が駒沢のまちづくりにおけるコモンズ形成にどう貢献できるか  
—「駒沢こもれびプロジェクト」への参与観察を通して

社会連携プロジェクトの総括として、李ゼミでは活動報告書のほかに、調査研究の成果となる100ページ超のゼミ論集『商業的再開発で市民的コモンズは生まれるか—駒沢こもれびプロジェクトを中心に』をまとめ上げました！調査実習として質的データの整理と分析に基づき考察を行ったものですが、同時に報告書の作成過程は、社会連携プロジェクトとしてゼミ生たちが試みた社会参加、特に、大学生ならではの地域貢献に対する模索を振り返る貴重な機会でもありました。



KOMAZAWA Crossing

商業的再開発で  
「市民的コモンズ」  
は生まれるか

駒沢こもれびプロジェクト  
を中心に

2025年度  
李ゼミ論集



じゅうにんひゃくいろ  
100色



商業的再開発で  
「市民的コモンズ」は生まれるか  
—駒沢こもれびプロジェクトを中心に

「市民的コモンズ」とは何か

駒沢こもれびプロジェクトの実績

Data Table



今回の社会連携プロジェクトで私たちが最もこだわったのは、「大学生ならではの企画」を、可能な限りゼミ生が主体的に進めることでした。こもれびプロジェクトのご協力により駅構内にポスターを掲示する企画、調査実習の成果を活かした2回の対話企画（こもれび公開李ゼミ）を実現したことに加え、独自に絵本の読み聞かせ講座の企画も実施しましたが、どの程度自分たちが「主体的に」できたか、正直疑問に思いました。

ATTENTION PLEASE  
ピンポンパンポーン  
駅ご利用のみなさま  
駒澤大学に寄り添って頂き  
ありがとうございます!

毎年3500名の大学生を迎え入れ、送り出すこのまち、この駅

駅や周辺の混雑を、ただの「ストレス」で終わらせない  
駒澤大学社会連携プロジェクトが、まちづくり、地域活性化、  
駒澤こもれびプロジェクトと協力して取り組んでいます。

駒澤大学 駒澤キャンパス 駒澤こもれびプロジェクト 駒澤大学

キーンコンカーンコン  
混雑時間帯  
以下の時間帯は通学で  
駅や周辺が混み合い恐れ入ります!

8:30 10:30 12:30  
14:30 16:00 18:00

駒澤こもれびプロジェクト  
駒澤大学社会連携プロジェクト

こもれび公開李ゼミ  
9月24日(水)  
17:00-18:30

@こもれびスタジオ  
東京都 世田谷区  
上馬 3丁目-17-7  
(ユニクロの2F)

無料・申し込み不要

## 「市民主体」ってなに？

石川県フィールドワークからの学び

「市民主体」という言葉、よく聞くけれど、一体どういうこと？ 私たち李ゼミは、その答えを探しに石川県加賀市を訪れました!

市民的コモンスの実践を見るために、石川へGO!  
おんせん図書館みかん、九谷焼美術館、蘇梁館  
こもれび×石川の対話

ゼミの研究テーマは「商業的な再開発で市民的コモンスが生まれるか」。特に、「市民主体」はどうか、知りたい!

石川県加賀市の3つの特徴的な空間資源による市民的コモンスには、それぞれ個性的な「市民主体」がありました! 実地調査の結果を共有します!

駒澤ではどんな「市民主体」を実現していきたい? 地域価値の向上を目指すまちづくりのプラットフォーム「駒澤こもれびプロジェクト」が、石川の実践者と対話します!

駒澤大学文学部社会学科 李ゼミ & 駒澤こもれびプロジェクト  
駒澤大学社会連携プロジェクト

こもれび公開李ゼミ第2回

YAN YAN vol.1  
TOWA RADIO vol.1

第1回立ち上げ記念!

## 主体性ってデザインできる?

若者×地域×ぶっちゃけトーク

2025  
11.19 (WED) 17:00-18:30

ゲスト  
金安 斗和 駒澤大学生 李ゼミ プロデューサー  
新井 佑 NPO法人neomura/ (一社)ささみの美術大学  
李 妍焱 駒澤大学教授 李ゼミ 主任

TOWA RADIO とは?

参加方法: 事前予約不要  
参加費: 無料  
会場: 駒澤こもれびスタジオ  
〒154-0011 東京都世田谷区上馬3-17-7  
駒澤大学駅から徒歩1分  
ユニクロ駒沢自由通り店2Fとなりのフロア

駒澤大学文学部社会学科 李ゼミ & 駒澤こもれびプロジェクト  
駒澤大学社会連携プロジェクト

YAN YAN vol.1  
子どもにもモチモチ!!

## パパのための「読み聞かせ」講座

参加無料

絵本の読み聞かせが苦手なパパ!  
子どもに絵本を読んだことがない未来のパパ!  
絵本専門の教授が  
コツを伝授します!

駒澤大学 文学部 社会学科 李ゼミと主催

12月6日(土)  
時間 10:00~11:30  
場所 駒澤大学 深沢キャンパス 和室: 紅葉  
メールアドレス riyanyanzemi@gmail.com

お申し込みはコチラから

そして、私たちがやってみたくと思う企画とこもれびプロジェクトが思う「よい企画」とは距離があることにも気づきました。湧き上がってくるのは、地域のまちづくりにおける大学生の「主体性」が本当に可能なのか、どんな条件の下で可能なのか、という問いでした。

大学生の社会連携に向けたこの素朴だが難しい問いに対して、私たちがたどり着いた答えとは? 3月14日の報告会をどうぞ期待してください!

## 【まちづくり・地域づくり部門】経済学部 長山 宗広 先生プロジェクト

2つの活動を通じて、多くの学びを得ることができました！

### 活動テーマ 世田谷区の地域資源を活かしたアントレプレナーシップ教育の実践

#### 【「世田谷デジタルものづくりフェス」の振り返り】

今回の「[世田谷デジタルものづくりフェス](#)」では、企画から準備、当日の運営までを通して一つの作品（商品）を完成させることができました。最初はアイデアを形にする事の難しさを感じましたが、話し合いを重ねる中で方向性が定まり、少しずつ具体的な形にしていくことができました。特に試作や改善の過程では、実際にやってみないと分からない課題が多く見付き、その都度修正を重ねることの大切さを学びました。

当日は準備してきたものを来場者に届け、直接反応を見られたことがとても印象に残っています。うまくいった点もあれば、想定通りに進まなかった場面もあり、実際の現場でしか得られない学びが多くありました。

今回の活動を通して、計画性の重要さだけでなく、状況に応じて柔軟に対応する力の必要性も感じました。また、周囲と協力しながら一つの目標に向かって取り組む経験は、とても貴重なものとなりました。今後は今回の反省点を活かし、より準備を徹底したうえで取り組みます。そして、自分の考えを形にする力をさらに高めていきたいと思います。

#### 【フルーツ新商品開発の振り返り】

今回ご一緒させていただいたのは、世田谷区を拠点にフルーツ事業を展開されている株式会社東果堂です。東果堂は『美味しく楽しく余す事なく』をモットーに、国産フルーツの魅力を日常に届けることを目指している企業です。特に、規格外果実なども積極的に活用する“エシカルフルーツ”の取り組みが特徴です。私たちはまず、このブランドビジョンや事業コンセプトを深く理解することから活動をスタートしました。

今回私たちが担当したのは、2026年夏に販売予定のアイスの販売プランと販促物の企画・制作です。学生の視点から、東果堂らしさをどう商品として形にできるかを考えました。机上で考えるだけでなく、実際の事業にどう活かせるかを常に意識しながら議論を重ねました。また、マーケット出店やケータリングの現場にも参加させていただきました。接客補助や陳列、POPの工夫などを体験し、お客様の反応を直接見ることができました。理論だけでは分からない現場の工夫や課題を知ること、より現実的な商品企画の重要性を実感しました。商品企画では、私たちと年齢の近い若年層をターゲットに設定しました。そして、『夜中に小腹が空いたときでも罪悪感なく食べられるアイス』というコンセプトを提案しました。フルーツ本来の甘さを活かし、健康志向と満足感を両立させることを意識しました。さらに、ブランドイメージを踏まえたパッケージデザインや、コンセプトが伝わるノベルティ案を各自が考え、理由とともに社長へ提案しました。東果堂の世界観を崩さず、かつ若年層に響くデザインとは何かを議論しながら形にしていきました。

今回の活動を通して、企業と連携して企画を考える難しさと面白さを強く感じました。授業で学んだマーケティングやブランディングの知識を実践に落とし込む中で、自分たちの考えが実際の事業につながる可能性を実感しました。地域企業と協働する意義や、社会とつながる学びの大切さを体感できたことが、今回の最大の成果だと感じています。

## 【SDGs部門】経営学部 村山 元理 先生プロジェクト

学会参加やワークショップ開催など、研究成果を発表しました！

### 活動テーマ 幸せ創造企業を実現するには

12月6日に駒澤大学で開催された、第15回CSR構想インターゼミナールに参加しました。夏頃から本格的に研究を進めてきた成果を発揮する舞台で「幸せ創造企業認定プロジェクトについて～幸福循環を生み出す企業経営～」をテーマに発表しました。結果は惜しくも入賞まで至りませんでした。他大学の教授の方々に評価、アドバイスしていただきとても貴重な機会になりました。



1月31日駒澤大学にて開催された第2回経営理念研究会に参加しました。CSR構想インターゼミナールで発表した研究を基盤とし、当時指摘された部分や足りなかった部分を補うことでより良い発表をすることができました。



また、外部指導員であるアチーブスジャパン株式会社代表取締役の梅村武史さんと共にワークショップを開催しました。そこでは大学の教授以外にも様々な企業や専門家の意見を得ることができ、アドバイスや研究をどう発展させるかについて考える機会をいただきました。



【まちづくり・地域づくり部門】経済学部 松本 典子先生プロジェクト  
世田谷のコモン・スペースについて発信する3本の動画が完成しました！

## 活動テーマ 世田谷のコモン・スペースを発信するコンセプト映像制作

12月～1月もタタタハウス、学び舎トーカ、HOME/WORK VILLAGEの3チームに分かれ、撮影してきた動画や写真をもとに、動画編集を行いました。3団体の思いや活動内容をより良く発信するためにはどのように編集をしていけばよいか、ナレーションやテロップをいれるかきれないか、どんな音楽を選べば良いのかなど、チームごとにHIROBAの田川さん、宮部さんと真剣に考えました。



その結果、最終的に、世田谷のコモンスペースを発信する3つの動画を完成させることができました。今後、学内の活動報告会や、5月17日に三軒茶屋の生活工房で開催される「第7回せたがや居場所サミット」で動画を鑑賞したり、SNSなどでも発信していく予定です。



## 【SDGs部門】経営学部 青木 茂樹 先生プロジェクト

大規模イベントでの展示、SDGs実践事例を学ぶため神戸を視察しました！

### 活動テーマ サステナブル・アクション・プロジェクト (SAP) の 広域展開によるサーキュラー・エコノミーの訴求

#### ○Green Sports

三井化学株式会社様との連携により、応援・復興のシンボルとして、ペットボトルキャップを原料とした「ReDharma」を制作しました。

学校と地域を結ぶ本活動を通じ、リサイクルの難しさと多くの方々の協力の有り難さを痛感しました。皆様への感謝を胸に、今後はさらに学内へ積極的に発信を広げていく事で学生の関心を高めていく決意です。

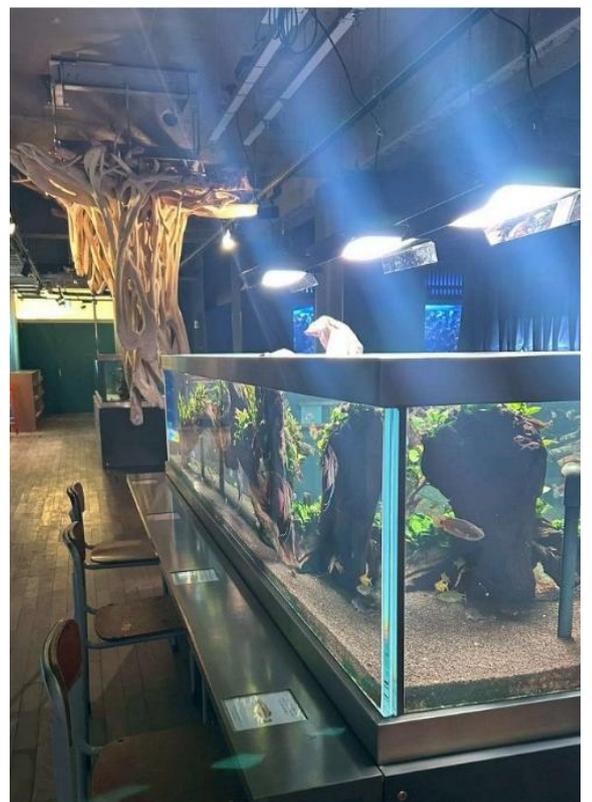
この貴重な経験を糧に、地域や社会へ貢献できるよう活動をさらに展開してまいります。

#### ○駒コレ

大学外のSDGs実践事例を学ぶため神戸を訪問しました。

神戸大学では、SDGs推進室副室長の土井様にご対応いただき、先進的な取組について対談形式で意見交換を行いました。あわせてNATURE STUDIOでは廃校活用による都市再生の事例を見学し、神戸市東灘処理場では下水を資源へ転換する循環技術を学びました。

本視察で得た知見を、今後の研究・実践活動に活かしていきます。



## 【産学官連携部門】経済学部 大前 智文 先生プロジェクト

連携先の岐阜県中小企業家同友会政策委員会に向けて、プロジェクト報告会を実施しました！

### 活動テーマ 駒大生と中小企業家との連携から 「令和における『人を生かす経営』」のあり方を探る

2026年1月28日、岐阜市内（じゅうろくプラザ）において、「令和における『人を生かす経営』」に関する研究成果について報告をするとともに、プロジェクトメンバーと中小企業家とが意見を交換しました。



報告会では若者（駒大生）の働き方・就職に関する意識アンケート調査結果と先進企業への訪問・ヒアリング調査結果を踏まえた、「令和における『人を生かす経営』」について解説・報告しました。

大企業に比して企業規模が小さい・総従業員数が少ない中小企業において、その規模が小さいということを逆手に取って、従業員の「多様な生き方」を「多様な働き方」として自主的かつ具体的に構築していく可能性と実践事例について考察しました。令和の中小企業における「人を生かす経営」とは、単純な労働条件と労働環境の改善からだけではなく、人間が本来的に有する諸力を企業の諸力あるいは競争力として昇華させるための総合的な視点から論じる必要があることを解明しました。



意見交換では、中小企業経営者側から「若者の働き方・就職観の変化に驚いたが、言われてみれば新入社員に抱いていた違和感に納得した」、「若者は会社の知名度や規模を最も重視せず、給料や休日、働き方を重視しているという点に驚いた。より具体的に見てもらえるならば、大企業と中小企業が勝負できるかもしれない」、「『人を生かす』ということは総合的な取り組みでなければならないということが理解できた」という意見がありました。



本プロジェクトでは当初の計画にあった活動内容をすべて達成することができました。プロジェクトメンバーはアンケート調査、企業訪問を実施するとともに、各報告書をまとめることから学習・成長の機会を得ることができました。連携先である岐阜県中小企業家同友会からは若者との交流から、新たな知見を得るとともに意識をアップデートすることができたという評価をいただきました。また、「もっと交流する時間が欲しい」、「若者と一緒に経営書、学術書を読み込んでみたい」という今後の要望もいただきました。ありがとうございました。

## 【社会連携センターより】3月14日（土）に活動報告会を開催しました！ 全9プロジェクトによる成果発表を行い、多くの方々にご出席いただきました！

3月14日（土）、令和7年度「駒大生社会連携プロジェクト」活動報告会を開催し、プロジェクトの採択に携わった外部審査員や連携先の皆様にもご出席いただき、全9プロジェクトの学生代表者が活動の成果を発表しました。本報告会は、同日に開催された「春のオープンキャンパス」のゼミ見学コンテンツとしても位置付けており、高校生を始めとする延べ250名以上の来場者に観覧いただきました。

終了後には、本学の社会連携・地域貢献を一層促進させるべく、参加者間での名刺交換・意見交換の場が設けられ、交流を深めました。なお、本報告会は、世田谷プラットフォームの後援にて開催されました。



- 今年度の駒大生社会連携プロジェクトについては、[令和7年度「駒大生社会連携プロジェクト」](#)をご覧ください。
- 駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、[社会連携センターのホームページ](#)のほか、社会連携センターSNSでも発信中です。フォローよろしくお願いします！  
[X \(@koma\\_collabo\)](#) [Instagram \(koma\\_collabo\)](#)

発行：駒澤大学  
学術研究推進部  
社会連携センター  
(2026年3月)